



とうかい

第 14 号

公立学校
共済組合 **東海中央病院**

◆基本理念◆

「最高の誠意」「最善の医療」

◆基本方針◆

- (1) 患者さま尊重の医療
- (2) 診療機能の向上
- (3) 健全経営の維持

開口障害：あなたは、口が大きく開けられますか？

歯科口腔外科 市原 秀記

1. 開口障害の自己診断

いつもお寿司が食べにくい、あくびをすると何か引っかかる、歯医者に行くといつも、もっと大きく開けてと言われていませんか？もしかすると、普通より口が大きく開けられないと感じている方はいませんか。口の開く量は体格や性別でも異なりますが、通常上下の歯の間が45mm以上（男性は50mm）開くのが一般的です。

簡単に自己診断するには指を3本縦にそろえて上下の歯の間に入れてみてください。もし入らなければあなたは開口障害かも知れません。

開口障害にも程度があり、軽度障害（4 cm以下）、中度障害（3.5cm以下）、重度障害（3 cm以下）に分けられ、特に中程度以上の障害のある方は、奥歯が痛くなったり、親知らずが痛くなっても歯医者では薬を出すぐらいしか治療ができませんし、救急治療時に行う気管内挿管という処置が困難になり、命の危険もあります。

2. 開口障害を起こす疾患

通常開口障害は、炎症性、腫瘍性、関節性、外傷性など種々な原因があります。

炎症性は親知らずの腫れが周囲の筋肉に波及し動きを悪くする時などに起き、腫瘍性は腫瘍が顎を動かす筋肉や関節に波及した時に、関節性は顎の関節の内部異常などにより起き、その他では破傷風や強皮症（皮膚が硬化して開きにくい）などがあります。

このように開口障害と一言で言ってもいろいろな原因があり、自己診断は危険で時期を遅れると治療の予後はかなり厳しいものになってしまうこともあり、早期に専門医である歯科口腔外科をにかかるようお勧めいたします。

3. 開口障害をおこす疾患で最も多いのは顎関節症

開口障害を起こす疾患で最も多いのは顎関節症であり、特に関節円板障害を伴うタイプに多いようです。

通常顎関節症は女性が男性の約3倍発症し、年齢では20歳代、40歳代以降に好発し、加齢とともに難治例が多くなるようです。関節円板は骨の間に挟まっているクッションのようなもので、少しずれると口を開け、閉めする時にカクカク音がするようになり、もっとずれると円板にひっかかって口が開かなくなります。

しかし早期に治療にかかるほとんどの人が鎮痛剤やスプリント治療（マウスピースのようなもの）、運動療法、関節内洗浄療法などを併用することにより良くなります。手術が必要な場合は2～5%程ですが、ほとんどが顎関節鏡による手術で傷痕もほとんど残りません。

全面禁煙のお知らせ



受動喫煙の防止を定める健康増進法に則り当院は、平成16年4月1日より病院敷地内を全面禁煙とすることを決定いたしました。

何卒趣旨をご理解いただきご協力賜りますようお願いいたします。

病院長

病棟紹介

A4階病棟 山田理江

A4階病棟は、呼吸器・循環器の病棟で主に肺炎・肺癌・心筋梗塞・狭心症・心不全患者様の多い病棟です。そのため、呼吸器・心肺監視モニターの知識や管理が必要となります。

入職した頃には戸惑う事が多かったのですが、先輩が新人勉強会を定期的に行っていて下さるため、色々と学ぶこと



ができました。

また、この病棟では心臓カテーテル検査で入院する患者様が多く、私達は、検査前から退院までの看護を行い、検査中は医師の介助と患者様の管理を行っています。

日勤帯だけでなく夜勤帯にも緊急カテーテル検査を行うことがあるため、休憩せずノンストップで働くことがあり、私達は緊張と空腹・眠気との戦いです。

4階病棟の患者様はいつ急変するかわからず、何が起こるか予測もつかないので、気が抜けず、常にモニターの音に耳を傾け、モニターがいつもと違うなど感じたらすぐ患者様の所へ行くなど、多忙の毎日を送っています。

特に夜勤帯はスタッフの人数が少ないため、急変にも対応しつつ、慢性患

者様の転倒・転落や徘徊にも注意していかねばいけません。

そんな状況の病棟なので、4階のスタッフは仕事が速い人達ばかりで、先輩からの指導にも厳しいものがあります。病棟の大変さや、先輩の厳しさは自分の勉強の為だと思っても、私はいつになったら先輩に追いつくのか心配で、辛く不安になる時があります。

でもそんな時、患者様の日に日に元気になれる姿を拝見すると、私達も「がんばらなくては」と思い、患者様からの優しい言葉や、笑顔を頂くと、不思議と元気を頂いて「また頑張ろう」という気持ちになれます。

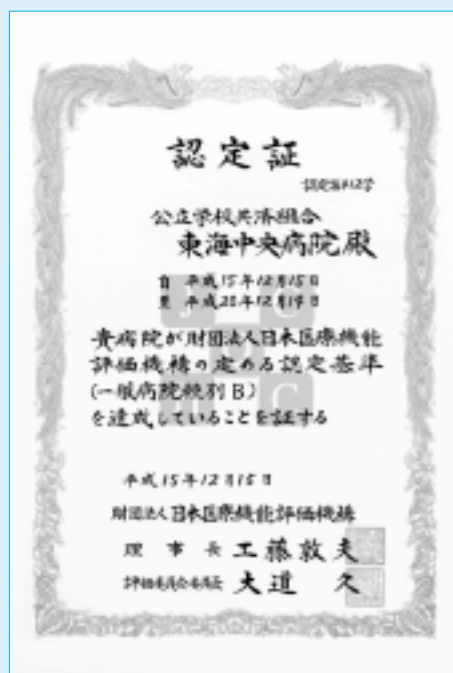
気が付くと、私も患者様からたくさん助けられ、支えられている事を感じる毎日です。

一般病院種別B合格！

財団法人日本医療機能評価機構の定める認定基準（一般病院種別B）に認定されました。今後とも、医療の質の一層の向上を図るよう努めます。

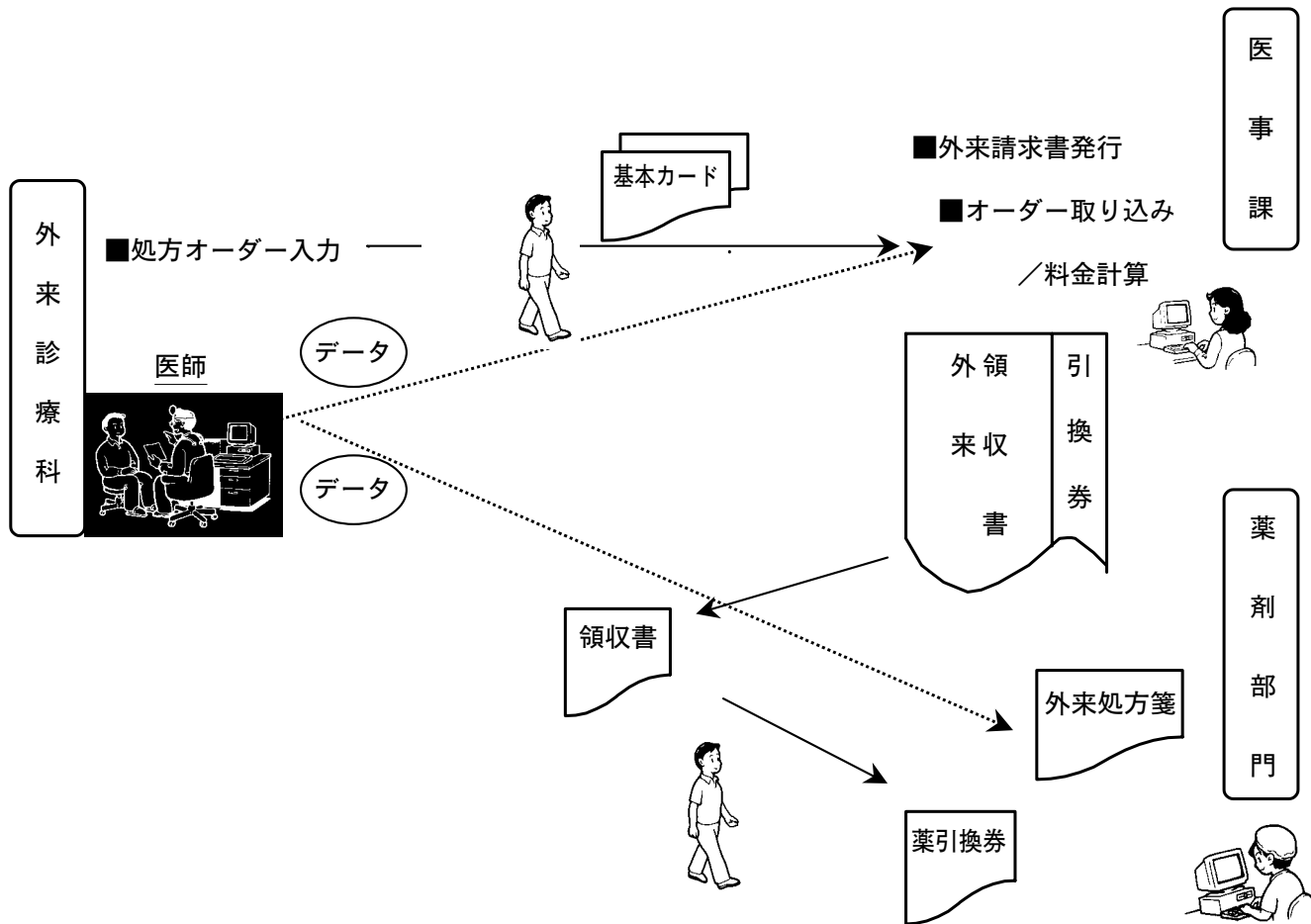
財団法人日本医療機能評価機構は、みなさまが病院に関する適切な情報を得ること、認定をうけた病院が、評価結果に対して責任を持つことを目的にホームページ（<http://www.report.jcqh.or.jp/>）上にて評価結果を公開しています。

当院の評価結果を是非一度ご覧ください。




お薬のある患者さまへ

当院では、平成16年 1月15日から外来処方箋のコンピュータ化を始めました。これは、手書きで処方箋を発行するかわりに、医師がコンピュータに処方を入力して、薬剤部と会計へ伝達するシステムです。これにともない、外来診療科でお渡ししていた処方箋はなくなります。



お薬のある患者さまは、外来基本カードを医事課 5番窓口へ提出後、ホール待合でお待ちいただければ、会計窓口でお名前をお呼びいたします。

お会計を済まされる際に、お薬引換券をお渡しいたしますので、番号表示板に引換番号が表示されましたら、薬局 8番窓口でお薬をお受け取りください。

<p>◎初診・再診受付時間▶ 8:30～11:30</p> <p>◎毎週土・日曜日祭日全科休診</p> <p>保険証等の提示</p> <p>お願い 月に一度は保険証・医療証等を保険証提示窓口 に提示してください。</p>	<p style="text-align: center;"> とうかい</p> <p>発行：〒504-8601 各務原市蘇原東島町4丁目6番地2 公立学校共済組合 東海中央病院 電話 (0583) 82-3101 / FAX (0583) 82-1762 発行人：病院長 間野 忠明 発行：年4回</p>
---	--